



第10号

2013(平成25)年
3月31日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 三嶋統吾

「朋友」とは、同信のなから。
2008(平成20)年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏社会員が力を合わせ、とも
に歩みを進めていこうという
願いから名づけられました。

東北被災地訪問・ 支援の旅に参加して

福岡教区仏教壮年会連盟
理事長

高田 康博



東日本大震災から一年四カ月がたとうとする頃、直接被災地の様子を見聞きしておかなければ被災された方々にどのように寄り添えばいいのか、分からないままに終わってしまうような気がしました。そのような思いのなか、二〇一二(平成二十四)年七月二日より早良組で、現地を訪問する貴重なご縁を頂き、被災された三カ寺と、復旧支援にあたった仙台別院を訪れ、震災にまつわるお話を伺うことができませんでした。

南相馬市の常福寺様では、ご住職のお話から、原発事故による放射能汚染の恐さ、対応の遅れによる被害の拡大、あてどころのない怒りや、責任ある補償もないことによる、将来への不安などがヒシヒシと伝わってきました。

仙台別院では、中岡輪番より東北教区の事情や震災時の様子、災害ボランティア活動の拠点として大きな役割を担い、宗派を問わず多くの方々を受け入

れてきたお話を伺い、嬉しく思いました。専能寺様では、震災の影響から、途方に暮れるしかない中でも、人間の力、絆は素晴らしいと述べられるとともに、まだまだ立ち直れない被災者がいることを忘れないで欲しいとの願いを伝えてくださいました。

石巻市内に入りますと、瓦礫の山、基礎部分だけが残った街並、校舎の焼けた跡、荒涼たる惨状を目の当たりにして言葉が出ませんでした。此処にあった日常生活が想像され、報道を通じた映像とは印象がまったく異なり、衝撃を受けました。

称法寺様は、当時、家族の安否や門徒の消息等を心配されたことをお話しいただきました。思い出すのも辛いことをお話しいただぎ、申し訳ない思いがいたしました。寺院を守ってこられたご住職の思いに寄り添い、これから支援をしていきたいと思います。

忘れねや

東北教区仏教壮年会連盟
理事長

佐藤 治雄



「わせねや」は忘れないでくださいという宮城県の方言です。東日本大震災から二年の月日が経った現在、東北の地に住む私たちにとって、今までの暮らしが一変した三・一一から、少しずつではありますが、前に向かって歩き出せる方がいる一方で、未だ立ち上がる術さえない方々がたくさんいるのが現状であります。さらに、原子力発電所から漏れ出した放射能の問題が追い討ちをかけております。

写真は宮城県石巻市の震災直後と、

昨夏の同じ場所の様子を東北教区ボランティアセンターの方が撮ったものです。東北の地に脚を運んで、写真には映らない匂いや音など感じていただければと切に願います。月日が経つことで、海岸線からは距離のある蔵王の麓に住む私にも、ともすれば災害は遠くであった出来事と感じられつつあります。物心両面の支援だけでなく、折に触れ東北の地やそこに住む人のことを忘れないでいてくれることも支援の一部だと信じます。



寺院仏壮結成に向けて

当連盟では、スローガンに「朋友の輪を拡げ いのちがやく世界を」を掲げ、寺院仏壮五十%以上「現在の結成率約二十五%」をめざし活動を展開しています。二〇一二(平成二十四)年度全連区において寺院仏壮結成に向けた研修会が開催されました。

仏教壮年会活動の主体とは

国府教区仏教壮年会連盟理事長 竹田直樹



十二月一日、国府別院において、義本弘導講師をお招きし、国府教区が担当となり、「寺院仏壮結成と活性化に向けた研修会」が開催されました。

国府教区は海と山に囲まれた越後の過疎山間地が多く、門信徒数の減少、高齢化の波が全国規模を上回る早さで進んでいる地域でもあります。そのため、仏教壮年会の登録数は第一連区内では最少で、全国でも最も結成化の遅れている教区の一つとなっています。

この地域は十二月から三月まで雪に閉ざされるために、この期間の行事や会合がほとんど行われない特異性をもつことから、今回の研修会は参加者が少ない研修会となつてしまいました。

義本講師からは、
①組織から始めるのか、活動から始めるのか
②お寺の宗教性と日常生活の乖離(かいり)に対して、実生活とのつながりが必要であり、「楽しくなければお寺でない、楽しいだけがお寺でない」

などの問題提起をいただき話し合いに入りました。

寺院仏壮を結成するためには、住職の主体性ばかりを問うのではなく、寺院と門信徒がそれぞれの立場で何ができるのかを問いながら話し合いを進めていく必要があること。仏壮の活性化については、行事のマンネリ化・何をしたらいいのか等の問題を抱える中で、他の寺院を見ることによつて新しい発見があり刺激になつていくと話し合われました。



今回の研修会を通じて、寺院側と私たち仏壮会員が積極的に話し合いを持ちながら、寺院仏壮結成と活性化に向けた取り組みを推し進めていかなければならないことを再確認いたしました。

お寺の敷居を低く、誰もが集う場にする

京都教区仏教壮年会連盟理事長 尊田佐一



第三連区は、「寺院仏壮結成に向けた研修会」を、八月十八日、浄土真宗本願寺派伝道本部の大会議室で、活動推進講師・小林顕英師を招いて、京都教区の担当で開催いたしました。

京都教区の現状と問題点や役員の思いに基づき、「なぜ仏壮が必要か」をテーマにした小林先生の基調講演では、「なぜ聞法が必要なのか」から「帰る家はあっても還るホームがない」など八項目に分けてお話を頂きました。また、過去の検証と現代の現状を明らかにしながら、「親鸞聖人を師として弱い私」と、気づかせていただくのが、お寺での聞法・聴聞であり、一人ひとりが輝き安らかに・穏やかに暮らせる社会にしていくなは仏教壮年がお寺に集い「寺の敷居を低くすること」と、問題提起がありました。

協議会では、参加者が日頃疑問に思っていることや、数々の質問にも的確に答えていただき、和やかな雰囲気でした。また、研修会に六人の組長と十組全ての組からご門徒の方々が参加してくださったことは、教区の仏壮活動に大きく影響していくことと、嬉しく思います。

二〇一二(平成二十四)年一月十六日、ご門主様が『親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として「新たな始まり」を期する消息』を發布されました。今後、お寺を中心にご住職、総代役員、壮年会が多くの朋友と一緒に活動し、その姿を子どもや、お孫さんに見てもらえるようにしていけば、仏教壮年会はゆるぎなく発展していけると思います。



山陰の地に寺院仏壮結成の種を蒔く

山陰教区仏教壮年会連盟理事長 泉原省三



山陰教区は単位会結成率約二十一％であり、全国平均に届いていない状況から連区内の他教区理事長のご理解をいただき、九月二日、島根県大田市において第四連区の「寺院仏壮結成に向けた研修会」を開催いたしました。

参加者は教区内十五カ寺の僧侶、門徒十八名、中央からの出向者五名、四連区内各教区役職員八名、山陰教区役職員八名の合計三十九名でありました。決して多くの人数ではありませんでしたが、最近、仏壮を結成された会長からの事例発表に続き、活動推進講師の藤井邦麿先生に問題提起をいただきました。

山陰教区内二十組の内、特に結成率の低い九組の組事務所を訪問して研修会開催の趣旨を説明すると共に、参加協力をお願いをしました。事例発表や問題提起のお話を聞かれた参加者が、刺激と奮起に満ちた様子を拝見し、嬉

しく思いました。山陰の地に寺院仏壮結成の種は確実に蒔かれました。後は素晴らしい芽が吹くことを願うばかりです。



未結成寺院への呼びかけを慶びに

北豊教区仏教壮年会連盟理事長 角倉吉治



十一月十七日、北九州市のパークサイドビルにおいて、北豊教区が担当となり、各教区より四十七名の参加をいただき、「寺院仏壮結成に向けた研修会」が開催されました。

この研修会は全国を五つのブロックに分け、ブロック内において持ち回りで寺院仏壮の結成率五十％以上の目標のもと、仏壮の拡大や強化に向け、取り組んでいる活動の一貫です。

研修会は活動推進講師の藤井邦麿先生より問題提起がなされ、第五連区（九州・沖縄）寺院仏壮登録の現状がクイズ形式で各教区参加者に問われ、改めて現状の認識の無さを知らされましたが、結成率では全国の中で第五連区内の教区が一〇四位を占めていることを確認したところです。

次に結成上の課題・問題点、また教区仏壮役員の役割、住職の課題や過疎・高齢化等についても、より理解できるようにお話を頂きました。その後、四班に分かれて班別討議が行われました。

各班とも活発な意見交換がなされ、特に「仏教壮年会が結成されていない寺院に対して、呼びかけを行う時、そこに楽しみがあると思ってもらえるような取り組みを行いたい」という積極的な意見が出ました。

「まとめ」では藤井先生より、ご法義を護持することが大切であり、「縁を慶べ」との言葉を頂き、大変有意義な研修となりました。その後、懇親会にいたつてもさらに活発な意見交換がなされていました。さらなる仏壮連盟の発展に繋がるような気がします。



●第1連区 北海道・東北・東京・長野・国府・新潟
●第4連区 山陰・四州・備後・安芸・山口

●第2連区 富山・高岡・石川・福井・岐阜・東海
●第5連区 北豊・福岡・大分・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

●第3連区 滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫

第2連区(担当：岐阜教区)の報告については、次号に掲載予定です。

二〇一二(平成二十四)年度 新規登録単位数

(10月18日～3月20日現在)

【東京教区】

芝 組 光明寺 光明精舎
都 留組 福正寺 福正寺仏教壮年会
埼 玉組 善巧寺 ぜんぎよう仏教壮年会

【山陰教区】

大田東組 正蔵坊 正蔵坊仏教壮年会
(真宝会)
鳥取伯耆組 勝福寺 勝福寺仏教壮年会

【山口教区】

熊 毛組 西福寺 東光会

【北豊教区】

企 救組 末應寺 末應寺仏教壮年会

【福岡教区】

東 筑組 福生寺 福生寺仏教壮年会
夜 須組 光照寺 光照寺仏教壮年会
粕 屋組 託乗寺 託乗寺仏教壮年会

【熊本教区】

玉 関組 浄明寺 浄明寺仏教壮年会
益 南組 慶専寺 往生会

◆仏教壮年会活動が『大乗』に!!◆

家族で読める、みんなで読める、門信徒ファミリー月刊誌としてご好評いただいております宗派の機関紙『大乗』に、本年4月号より**仏教壮年会活動コーナー**が誕生します。その名も「For You (フォー・ユー) 仏社会員のあなたへ」。全国の仏教壮年会の活動紹介や、法話、各種研修会・大会のレポートなど掲載を予定しておりますのでどうぞご期待ください！ 一家に一紙、本願寺の新聞『本願寺新報』(10日ごとの発行)と併せて、仏教壮年会活動の情報源として、ぜひご購入ください。

お電話での購読のお申し込み・お問い合わせは下記まで

本願寺出版社

電話：**0120-464-583**

(受付：平日 9:00～17:00)

購読料 1部 **375 円**
(年間購読料 4,500 円)

仏壮ホームページをご存じですか??

仏教壮年会連盟のホームページでは、時事的な記事を随時配信していく予定です。

「仏教壮年の声」のページでは全国の仏教壮年会から届いた声(活動報告)をお伝えします。あなたの仏教壮年会の活動をご紹介いただけませんか。記事をお寄せいただく場合は、下記メールアドレスに送信ください。全国的朋友の活動を紹介しましょう！

今すぐ、
アクセスを!



<http://www.hongwanjibussou.jp/>